

▶ アドバイスする細井和芳さんと興味津々で聞く児童



の3品を模範調理後、児童の調理台をまわってアドバイス。児童は「ねばねばして形を作るのが大変です」と、慣れない手つきながらもクラスメイトと協力して完成させ、フォークとナイフで食べる料理は格別な様子でした。細井さんは「上手にできてもできなくても、楽しく作るのが一番です。そして、五感で料理を楽しんでください」と料理や食事の楽しみ方を伝えました。

## 楽しく作るのが一番！

### 小学生が本格的な料理に挑戦

佐賀マイスターの細井和芳さんによるジュニア教室が11月28日、中部小6年生を対象に開催され、西洋料理づくりと食育講座が行われました。

佐賀マイスターは、高度に熟練した県内の技能者が認定されます。現在41職種で46人が、貴重な技の伝承等を行っています。

細井さんは西洋料理のマイスターで、地元の旬な食材を使った「ハンバーグステーキの狩人風」など

## 元プロ野球選手と野球を楽しむ

### 村岡耕一さんによる軟式野球教室

佐賀市出身で元プロ野球選手の村岡耕一さんによる軟式野球教室が11月29日、南部小で行われ、4～6年生64人が野球を楽しみました。

村岡さんは、横浜大洋ホエールズや西武ライオンズで活躍した内野手。子どもの頃、田んぼで野球をしたのがきっかけでプロを目指しました。講話では「夢はもっていますか？壁に当たっても、あきらめなければ必ず叶います」と、プロ入りまでの苦難などをもとに児童に夢をあきらめないことや野球の楽しさをやさしく語りかけました。

その後、児童はボールの投げ方や打ち方のコツを教えてもらい、村岡さんと一緒に基本の練習をしました。野球経験がない児童も楽しめるルールで行ったミニゲームでは、歓声を上げてのびのびと体を動かしていました。



▲ミニゲームでボールを打った児童と守備に声をかける村岡耕一さん

## 交通安全キャンペーン かかし設置

12/9

多久地区交通安全協会西多久支部（梶原幹雄支部長）と小城警察署は、事故撲滅のため「交通安全かかし」を作り設置しました。地元の住民らとともに制作したかかし19体は、夜間目立つように「反射タスキ」もかけ、西多久公民館前に設置。梶原支部長は「年末年始車が多いので、かかしを見て安全運転を」と交通安全を呼びかけました。夜間用「反射タスキ」は、交通安全協会より各町公民館で無料配布されています。



## 「あったか祭り」初めて開かれる

12/3

多久市・小城市の福祉作業所など9施設が集まり、障害がある人もない人も、みんな一緒に楽しめるお祭「第1回小城・多久あったか祭り」（陣内和博実行委員長）が、西溪公園で開かれました。地域の方との交流や障害者に対する理解のために初めて開催。

各作業所のテントでは野菜やまんじゅう、木工品の生産物を販売。保育園児の踊りやよさこいなどのイベント、大抽選会も行われ賑わいました。

